

東北復興と地域活性化を応援



1

形を変えながら 続く復興応援

東日本大震災から、今年で11年。JALグループは震災以降、社員による復興応援研修を行ってきました。2020年度以降はコロナ禍でもできる活動として、東北在住の社員や「JALふるさとアンバサダー」が、復興応援研修でお世話になっていた宮城県東松島市の佐藤農園で「デンマーク王室献上米」の田植え、草取り、稲刈り等のお手伝いを継続しています。

東日本大震災への支援を機に強固な絆を築いているデンマーク王室と東松島市。2015年からは感謝と復興の証しとして、佐藤農園の新米を献上しています。2021年のデンマーク大使館への献上には、東松島市の渥美巖市長とともにJAL東北支店長

の田中剛一、JALふるさとアンバサダー東北地区担当の高瀬雅子も同行しました。JALふるさとアンバサダーとは、地域にゆかりのある社内公募で選ばれた客室乗務員のこと。ヒト・モノ・地域をつなぐ航空会社として、全社員一丸・オリジナリティ・継続性をキーワードに地域の課題解決に取り組む「JALふるさとプロジェクト」の活動の一端を担っています。

JALふるさとアンバサダーたちは地域に移住し、培ってきた知見を生かして、地域資源を活用したコンテンツの創出や商品開発、企画提案などを行っています。

宮城の特産と伝統を 新スイーツに

高瀬と同じく東北を担当するJALふるさとアンバサダーの生川咲は、宮城県で特産

今回のテーマに該当する目標



68



2



4

5

6



3

1.2.「VICCA ヴィッカ〜イチジクの宮殿〜」。2021年10月には、仙台空港でポップアップ販売も行った。JALふるさとアンバサダー東北担当の生川と、オーナーパティシエの土田俊也さん、コルマル堂代表の土田誠也さんご兄弟。3.壁掛けタイプのフラワーリース。宮城県のハイブリッドチース、カスミソウなどと、飛行機型の飾りのコラボレーション。4〜6.「フルーツリング」各種。右から「桃×レモングラス」(秋田×山形)、「苺×柚子」(宮城×岩手)、「ゼネラルレクラーク×杏子」(青森×福島)。

品のイチジクを使った新スイーツ「VICCA ヴィッカ〜イチジクの宮殿〜」を、仙台市でパティスリー・ミティーク、カフェ・ミティークを運営するコルマル堂と共同で企画しました。

「宮城ではイチジクの甘露煮をご近所にお裾分けする伝統があります。幸せを大切な人に届ける文化をイチジクのケーキに乗せ、そこに客室乗務員として培った、美容や健康への視点を生かしました」と微笑みます。

生川はまた、震災の影響を乗り越えようとしていた東北の花き農家が、コロナ禍による需要減少で苦しんでいると聞き、東北6県の花需要を喚起するため、全国農業協同組合連合会（JA全農）、日比谷花壇と連携。生活に取り入れやすいフラワーリースの提案、展示販売を行いました。

東北の特産果物で 発泡フルーツカクテルを

さらにJALふるさとプロ

ジェクトでは、東日本大震災の復興支援の一助となるべく、2019年より株式会社ルーチェと、発泡性のフルーツカクテル「フルーツリング」の販売に取り組んでいます。

「フルーツリング」は、まだあまり知られていない良質な東北の果物——なかでも規格外の物や、台風被害で傷ついた果物の果汁などを使用して作られています。

昨年12月には青森県の洋梨「ゼネラルレクラーク」と福島県の杏子を使用した第3弾の「フルーツリング」を発売しました。JALショッピンなどでも好評販売中です。

JALグループはこれから、東日本大震災からの復興を支援し、地域課題の解決と持続的な地域活力の創出に努めてまいります。

S

JALふるさとプロジェクトの活動詳細はこちら



<https://japan.jal.co.jp/>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的な社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

69